

送付5-18、19、21~26、31、41、45~49、52~56、参考送付、送付6-8、18、26、38、39 陳情審査部分抜粋：令和 7年 1月24日 環境まちづくり委員会（未定稿）

○林委員長 二番町地区のまちづくり関連についてです。

本件に関する陳情は、継続中の送付5-18、5-19、5-21から26、5-31、5-41、5-45から49、5-52から56、参考送付、送付6-8、6-18、6-26、6-38、6-39の合計26件です。関連するため、一括で審査することとしてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい。ありがとうございます。

それでは、執行機関のほうから何か情報提供ありましたら、お願いいたします。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 それでは、二番町地区のまちづくりにつきまして、資料に基づき、2点、ご報告をさせていただきます。

1点目は、番町次世代シンポジウムについてです。環境まちづくり部資料2-1、ファイル番号05をご覧ください。

本シンポジウムは、1月12日、13時から17時に開催をいたしました。当日の詳細な記録は、現在、文字起こしを依頼中のため、意見交換の中で挙げていただいたご意見やアイデア等は改めてご報告をさせていただくこととし、本日は、実施の概要について、ご説明をいたします。

今回は、広報や区のホームページ、SNS、町会掲示板や千代田区ポータルサイト等で周知を行い、計37名の方からお申し込みを頂きました。定員の30名を上回ったため、学識経験者の方とも相談の上、選考を行っております。当日は、欠席者の方もいらっしゃったため、計28名にご参加を頂きました。

また、本シンポジウムは、都市計画審議会における二番町の地区計画変更に関する審議の附帯決議に基づき、地区の融和に向けた前向きな話合いの場として開催をいたしました。そのため、アドバイザーとして、都市計画審議会の委員である加藤教授及び村山教授に立ち会っていただいております。

なお、昨年10月15日の本委員会におきまして、本委員会の各委員による傍聴に関するご指摘を頂きました。その際のご提案のとおり、参加予定者の方々に対して、傍聴に関する意向確認を行ったところ、希望されない方がいらっしゃったため、今回は、大変恐れ入りますが、各委員の傍聴は見合わせていただいた次第です。

続いて、資料に記載のプログラムについてです。今回、進行は、専門のファシリテーターに委託して行っております。まず、番町の未来について大事にしていることや願いを含めた各自の自己紹介を行っていただきまして、その次に、加藤教授から本シンポジウムを開催する意味、意義を説明いただきました。それ以降は、グループワークが行われまして、全体対話、そして、アイデアづくりワークショップでは、こちらの資料に記載のテーマについて、参加者間で活発な意見交換が行われておりました。最後に、まとめとして、各自がシンポジウムに参加して「最も良かった事」、「新しく知った事」を挙げていただき、全員で共有をしていただいております。

シンポジウムが終了した後、参加者の皆様には、無記名でのアンケートを依頼し、現在、27名分の回答が集まっております。こちら、今回は部分的な報告となりますが、満足度に関して、半数以上の方が「とても良かった」という回答を選んでおりまして、「まあまあ良かった」という回答を含めると、大半の参加者の方にとってご満足いただける内容

送付5-18、19、21~26、31、41、45~49、52~56、参考送付、送付6-8、18、26、38、39 陳情審査部分抜粋：令和 7年 1月24日 環境まちづくり委員会（未定稿）

であったのではと認識をしております。また、主な意見も、抜粋ではございますが、こちらに記載をしております。今後の取組に向けて、どれも貴重な指摘として受け止めてまいります。

なお、ワークショップの際の各意見、アイデアについては、日本テレビの計画において検討がなされるべきもの、また、それ以外にも、番町エリア全体のまちづくりで検討すべきものがあったというふうに捉えております。

今後の方向性としては、前者に該当する意見、アイデアについては、日本テレビに全て伝えるとともに、区としては、今後、学識経験者の方々と相談の上、日本テレビへ求める与件整理の参考としてまいりたいと考えております。後者に該当するご意見、アイデアについては、次年度以降、区で番町エリアの構想であったり、まちづくりの考え方を整理したいと考えておりますので、その際に取り上げることで生かしてまいりたいと考えております。

こちらの資料、最後に末尾の米印に記載のとおり、文字起こしが完了した後、改めて議会報告をするということに加えまして、当日のご意見やアンケートの回答等は、追って区のホームページ等でも公開を予定しております。また、ファイル番号06、環境まちづくり部資料2-2では、今回のシンポジウムにご参加いただいた方々の属性等をまとめておりますので、そちらも併せてご参照ください。

続いて、2点目の報告についてです。昨年12月19日の本委員会において、小枝委員から用途地域の変更に關する説明のご要望がございました。本日もご不在ですが、このまま進めさせていただいてよろしいでしょうか。環境まちづくり部参考資料をご覧ください。ファイル番号は07となっております。

こちらの資料は、令和5年12月8日の当委員会において、資料要求に基づきまして計画容積率及び用途地域に關してご報告した際と同一のものとなっております。これ以降の説明も新たな報告内容はないので、概要に絞ってお伝えをいたします。

まず、資料の1ページ目には、計画容積率の考え方をお示ししております。こちらは、東京都の再開発等促進区を定める地区計画運用基準に掲載をされている内容です。今回の計画地に当てはめると、現状で指定されている用途地域である商業地域、路線式を600%、第二種住居地域、集団400%、そして、第二種住居地域、路線式500%を、それぞれの面積に応じた加重平均したものが図の一番下の指定容積に該当します。基盤整備に伴い、計画地の用途地域を見直した場合、変更後の用途地域に応じて、加重平均した後の容積率がこちらに記載の見直し相当容積率になります。

続いて、資料2ページ目では、見直し相当容積率の設定方法をお示しました。本計画では、基盤整備に伴い、第二種住居地域、集団の400%に指定されている地域の一部を、商業地域、集団500%に見直すこととしております。用途地域の変更は、東京都の用途地域等に関する指定方針及び指定基準にのっとって検討を行い、こちら、2ページ目の左上に記載した商業地域の基準では、指定すべき区域として、(4)の乗降人員の多い鉄道駅周辺の区域が挙げられております。この基準に該当することを、こちらのページの他の表、そして、次ページの3ページ目で表しております。

続いて、資料の4ページ目をご覧ください。こちら、左側に現況、右側に見直しというふうに記載をしておりますが、現況の指定容積率と見直し後の見直し相当容積率の比較を

お示ししております。指定容積率は3種類の用途地域を、面積に応じて加重平均すると、左側の現況が468%となります。一方、右側の見直し相当容積率は、第二種住居地域、集団400%の一部を、先ほどのご説明のとおり、商業地域、集団500%に変更した場合の加重平均率を算出し、488%となっております。

なお、この際、第二種住居地域、集団400%のうち、計画地内のスタジオ棟敷地は、後背の住宅市街地との調和を図るため、現状から変更は行わず、それ以外を商業地域へ変更するという考え方を取っております。

再開発等促進区を定める地区計画は、原則として、用途地域の見直しを行うことが要件となる制度で、今回の計画地には、引き続き、第二種住居地域も含まれており、高い建物が建つため、用途地域を変更するといった考え方は取っておりません。また、用途地域の見直しは、都の基準に基づき、事前の協議を踏まえ、計画されております。実際の見直しについては、将来的に東京都によって行われる予定です。

なお、都市計画審議会においては、容積率の積み上げの説明の一環で、見直し相当容積率に言及をしております。一方で、説明の内容が非常に広範にわたり、専門性も高い分野のため、制度の詳細や都の運用基準の該当箇所については、他の地区の計画と同様、詳細な説明までは行わず、割愛しております。

令和5年3月28日の都市計画審議会で、当初の都市計画案の採決が見送りとなった際、専門的な知見が求められる点について確認を行う専門家会議が設置されることとなりましたが、その際、容積率の妥当性も同会議で確認すべき内容に含まれてございました。その専門家会議の中では、容積率算定の詳細について、ご確認を頂き、住居系地域と商業地域の考え方を考慮の上、仮に試算をし直した上でも700%になるといったご報告については、その後の令和5年7月25日の都市計画審議会で、当時の会長職務代理の委員から出席されていた各委員に共有をさせていただいております。

こちらからのご説明は以上となります。

○林委員長 はい。委員の方。

○桜井委員 お疲れさまでした。このシンポジウムが行われたということで、どのような会になるのかなということで、非常に興味を持っておりました。

今、課長からのるるご報告を頂く中で、いよいよ、皆さんも、この計画について、自分の生活の中で取り入れて、二番町のこの計画がより地域のためになっていくような、そういう話合いがいよいよ始まったんだなという、非常に、私は、もうその話を聞いたときに、これはよかったなという、正直、そういう思いでした。特に28名中14名、「まあまあ」が11名と、25名ということで、大筋の方がこういうシンポジウムをやるということに対して、4時間の長丁場であったけども、もっと話す時間が欲しかったと、今まで、こういうコメントって、なかったですね。それがこういうような形で、それで、この右側の写真なんかを見ていると、非常に若い方もいれば、ご年配の方もいる。男性も、女性も、本当に皆さんで話し合っているという雰囲気が伝わってきています。

その中でお伺いしたいのは、今までこの計画については、2,500平米の広場ですとか、その活用だとか、または、スーパーマーケットを造ってほしいとか、また、交通機関に対するバリアフリーだとか、今までいろんなご提案を頂いた、地域の方からも賛同いただいて、そういうふうにしてほしいというような声もたくさん上がっていた。その中で、

今回、こういうようなシンポジウムをするという中で、何か今までと違った要望だとか、視点だとかというものが、文字起こしはこれからだということなんで、またそのときにお話、質問させていただきましても、実際に、そこに参加をされた執行機関の方が感じたもの、どのようなものがあったのか、今までになかったようなものがあったのか、どのように受け止められたのかということをお伺いしたい。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 はい。ただいまの桜井委員のご説明にもあったとおり、詳細なご説明は改めてまたご報告させていただきたいというふうに考えておりますが、一旦、現時点で事務局の受け止め方についてご報告させていただきますと、アンケートの回答でも満足していただいているといった回答は頂いているところではあります。アンケートの内容自体、いろいろとご記載いただいているんですけども、当日、私も状況を見て思ったのは、皆さん、非常に意見交換すること自体が新鮮に感じていて、お互いがどういふことを考えるかということについて、非常によい機会になったといったような声は多く聞かれたのかなというふうに感じています。また、それぞれ皆さんお考えはあるんですけども、ご参加いただいた皆さんが番町地域をすごく好きだということについては共通した部分なんではないかといったご意見も頂きました。

今後どういった開催にするかということはあるんですけども、ご意見の中には、住民同士でこういった意見交換の場を持っていくということについても必要じゃないかといったようなご指摘もありましたので、そういった点も踏まえて、今後の対応については考えていきたいと、そのように考えてございます。

○桜井委員 そうですね。本当にいいことだと思います。やはり、このシンポジウムを行うに当たって、何だっけ、加藤先生でしたっけ、（「加藤先生」と呼ぶ者あり）加藤先生、都計審の先生ですね。中立的なお立場で、それで、いろいろなこの計画についてのご報告が恐らくあったんでしょ。それを受けての、そういうような話合いが熱心にできたということも、一つの成功事例になっているんでしょけども、こういう番町の次世代シンポジウムというのは、今後も、やはり、地域の中で、それをそういうものを醸成していく、生かしていくということ、みんなが、この計画によって、この番町地区をどのようにしていくのかということ、共有していくということというのは、とても大切なことだと思うんです。そういう面では、最初にこれをやるときに、取りあえず1回やってみようよというような意見だったですね。それがもう少し文字起こしをしていただいて、それを見る中で、どのように生かしていくのか、1回でいいのかというようなことも含めて、いろんな議論、ご意見も、皆さんからも幅広く聞いていくということが大切だと思いますけども、この辺は、どのようにお考えなんですか。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 はい。当日の文字起こしの情報というのは、まだ当日ご参加いただいた学識経験者の先生方にも共有していないので、こちらの委員会でご報告すると併せて、先生方にもどういった内容のお話があったかということ、共有の上、相談をした上で、今後、どういった開催が望ましいかということについては、区としても考えてまいりたいと、そのように考えております。

○林委員長 はい。春山副委員長。

○春山副委員長 関連。

私の意見は、大体、桜井さんがご質疑していただいたので、ちょっと関連と補足なんで

すけれども、本当に参加された方々からすごくよかったという話を私も耳にしています。世代もいろんな方々がいて、いろんな生まれ育った方も、途中から来た方々も、それぞれがどういうふうにもちのことについて考えているのかということを知れたのは、本当によかったというお話を頂いています。

今後のことなんですけど、やっぱり、これ、附帯決議がついたから、まずやったというのが最初だったと思うんですけど、この対話型のまちづくりというのが、今後すごく必要になってきていると思います。単純に意見交換するだけじゃなくて、例えば、名古屋の錦であれば、皆さんで道路線形を考えてみて、こういう歩きやすいまちにしてみたいということ、行政としても受け止めながら、時間はかかりますけれども、そういうまちづくりに実際に変えていくという取組が日本全国で行われているので、やはり、こういうきっかけが、住んでいる人たちがシビックプライド的にまちをもっと好きになるとか、まちに関わっていくという意味でも、こういう機会を生かして、まちづくりに生かしていくということがとても大切だと思います。その点について、今後どういうふうにお考えか、お聞かせください。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 今回は、二番町ということではなく、番町エリアをテーマに企画をさせていただいております。その中で、意見交換に関しては、非常に積極的なご意見が数多くあったのかなというふうに捉えております。そういった意味で、番町地域に関してはということになるんですけども、次年度以降に関しては、先ほど説明の中でも申し上げたとおり、エリア全体のまちづくりをどうしていくか、方針をどう考えていくかといった検討もしてまいりたいというふうに考えているので、そういった場の中で、今回のようなシンポジウム、意見交換の機会といったような形がどう設けられるかということについては考えていきたいと思っております。

○林委員長 はい。

ほか、質疑ありますか。

○岩田委員 じゃあ、今後も、こういったシンポジウムというか、話し合いは引き続き続けていくということでよろしいんですね。まず、確認。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 先ほどのご説明と若干重複をしますが、まずは、細かい当日の記録については改めてこちらでご報告したいと考えております。その際のご意見を伺った上でということもございますし、あとは、学識経験者の先生方にも、今回の様子についてはご確認いただいて、今後の進め方については相談したいと、そのように考えております。

○岩田委員 あと、先ほど、こういう意見交換が新鮮だと、そういうような意見が出たというふうなおっしゃっていましたが、今までやらなかったのがいけないんじゃないですか。もう随分前からこういうのをやれやれと言っていたのににもかかわらず、ずっとやっていなかった。それを、今頃、もうちゃんと、何だ、行政としては、これを進めたい。で、決も採った。安心して、今頃、こういうシンポジウムをやりますと、皆さんの意見を聞きますと。あまりにもやり方が汚いという声が聞かれております、私のところには。もっと早くやるべきじゃないですか、こういうのって。これだけじゃないですよ。そういう何か計画があって、委員会でもめると、当然、皆さんの意見を聞いてください、聞いてくださいって。いや、そういう認識はございません、持っておりませんので、聞きません、

聞きませんって。そんなんばかりじゃないですか。それで、決を採って、もう議決賜りましたのでという、そういうもう切り札があるところで、ようやく皆さんの意見を聞きました。でも、聞きましたけども、それはあくまでご意見としてお伺いいたします、それを反映するわけではございませんみたいな、結局そういうやり方なわけですよ。そういうのじゃいかんと思うんですね。

それで、シンポジウムの意味とか意義を、まず説明していただいでいて、どういうふうに説明したんでしょうか、中身として。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 今回、このシンポジウムをやって、いろんなご意見やアイデアを頂いております。それを、今後どういった形で生かすかということなんですけれども、二番町に関するご意見、アイデアについては、当初想定しているとおおり、今後与件整理ということを考えておりますので、そこにこれまでの都市計画手続上のいろんなご意見ももちろんそうですけれども、全て勘案した上で反映してまいりたいというふうに考えておりますので、今回の意見を反映するわけではございませんというご指摘については、そのような考え方は、区としては取ってございません。

○岩田委員 最初に意味と意義とかの説明があったということなんですけど、その中身について、ちょっと聞きたかったんですけども、それというのはどうなんでしょうね。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。なぜ、シンポジウムを行うかということの目的について、冒頭、ご説明をさせていただいております。まずは、参加者間で番町の前向きな未来への思いというものを共有していただいて、ご参加いただいた皆さんの相互理解を深めるという目的を挙げておりました。また、今後の具体的で前向きな行動のアイデアを皆さんで出し合っていたいただいて、こういった話合いの機会が非常に楽しいといったようなことを感じてもらいたいといったことも目的として挙げております。

さらに、今後、建設的な対話の場を継続するということについて、つなげていくということも、シンポジウムの目的としては挙げておりました。

○岩田委員 その参加者は、前向きなとか相互理解とかというようなお話だけで、中身、中身というか、何でというのは変だな、二番町の地区計画の変更とか附帯決議があったとか基本計画とか、そういうようなことを理解されているんですかね。というのも、都計審の先生でさえ、前回、番町次世代シンポジウムって何ですかと聞かれていた。で、今のお話を聞くと、前向きなとか、相互理解とか、建設的な何とかかんとかみたいなような話で、実際に、そういう、じゃあ、例えば、二番町地区計画の変更とか附帯決議のとか、そういうようなお話はあったんですか。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 今回、募集、シンポジウムを行いますということについては、様々な形で周知をさせていただきましたが、その際に、募集に先立って、どういう形でこれまで経緯があったということについてはご案内の上で、ご参加いただいでいるので、そういった意味では、どこまでご確認いただいでいるかというところはあるんですが、背景については、皆さんご理解いただいでいるものかなというふうに考えております。

○岩田委員 実際、その中で、そのシンポジウムの中で、二番町の地区計画を変更しますという、そういう話はありませんでしたか。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 最初のご挨拶の中で、そういった前提について、前

提に基づいて開催するものだという事については、ご案内させていただいたかなというふうに認識しています。

○岩田委員 どの程度話したのか分からないですけど、例えば、地区計画変更に基づいて、うにゃうにゃと、一言で終わりなのかもしれないですけども、実際、地区計画を変更することによって、こういうことが起こりますというところまで詳細に説明をしたのかということを知りたいんです。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 今回のシンポジウムは、あくまでも前向きな話合いの場ということを目指していたので、既に確定した地区計画の内容であったり、それがどういった影響を及ぼすかということについて、説明をする場ではないというふうに考えておりました。そういった意味では、区から地区計画に関する詳細な説明であったり、解説というのは、その場では行っておりません。

○春山副委員長 関連。

○林委員長 ちょっと関連で、じゃあ、いいですかね。

副委員長、どうぞ。

○春山副委員長 今回の次世代シンポジウムが開かれることになった背景と目的について、もう一度確認させてください。これ、都計審で先生方もいろいろご意見されて附帯決議になったと思うんですけども、番町というまちが分断されている状況を解決していかなければいけない。そのためには、多くの人たちがまちに対する思いのようなものを意見交換して、そういうことが言える対立構造じゃない雰囲気醸成していくことが必要だということ、開かれた場が必要だということに附帯決議がついたと思うんですけども、その辺、区のほうはどのようにお考えでしょうか。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 はい。今回のシンポジウムの開催の意義については、ただいま春山副委員長おっしゃっていただいたとおりで、附帯決議の中で、地区の融和を図るための前向きに話し合える場、この話合いの場に該当するものとして開催をしております。

○春山副委員長 そういった意味では、個別計画に対して、対立的な意見を求めるなり、出すというよりは、もう少し融和的な場をつくる必要があったというところで設定をしたという理解でよろしいでしょうか。

○榊原穂町地域まちづくり担当課長 はい。ただいま春山副委員長ご指摘のとおりです。

○林委員長 いいですか、岩田委員。

岩佐委員、どうぞ。どっち。続ける。

○岩田委員 いいですか。

○林委員長 はい。岩田委員。

○岩田委員 最初に副委員長がご指摘されたとおり、まさに、分断というのは、何で分断したかといったら、区が今までちゃんとこういう説明とか話合いの機会を設けていなかったからですよ。それで決議もされて、終わって、落ち着いて、もうこれでひっくり返されることはないというふうに地元の方から言われております。なので、今後、こういうのは、皆さんの意見をもっと早く聞くべきというふうに思っておりますが、その点、区はどう思っていますか。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 こちら、附帯決議を頂いてから開催に至るまでの時間というのは、確かに時間としてはかかってしまったなというふうに認識はしてございます。そういった意味では、今回、こういった一つのきっかけとして開催をしたという実績もございますので、今後に関して言えば、今回の事例を参考に、どのような形で開催をすればいいかということについては、このノウハウを参考にした上で、なるべく早いタイミングでこういった機会を設けられるべきであれば、開催してまいりたいというふうに思っております。

○岩田委員 時間がかかるとか、そこじゃないんですよ。もう、何、皆様のご議決を賜りましたので、もうひっくり返すことができないというタイミングでやるんじゃないかと、もっと皆さんの意見が反映されるような、そういうタイミングでやれという話なんですよ。全部終わって、もうこれ以上ひっくり返されることはないだろうと安心して、じゃあ、シンポジウムをやりますよというんじゃないかと、皆さんの意見をちゃんと反映できるような、そういうタイミングでやるべきというふうに考えていますということなんです。区は、そういうのをどう考えているんですかということですよ。

○林委員長 区の位置づけの話になってくるんですけども、一義的には、法律の立てつけで、都市計画審議会というところの議決と地方公共団体の議決を基に、様々な都市計画が改正をされていくと。で、こういうシンポジウムって、これは名前の由来も聞きたいんですけど、次世代というネーミングは、いろいろ、僕も次世代世代なのかなと思うと、50過ぎると、そんなことも言えないなと思うんですけど、幅広の年齢層を見ていると、名前って、ていなすんで、ターゲットングで本当に次世代だったら、少なくとも私よりも年下の人たちを中心にね、それとともに、現役世代の人たちの声も聞くとかというやり方も様々あると思うんですけども、ただ、シンポジウムというのは、様々な領域設定の方を集めて、行政の方も広聴活動をやられてもいいと思うんですけども、どこまで決定権があるんだろうと、シンポジウムで出た意見が。参考にするのはあれなんですけれども、そうすると、岩田委員の質疑のところでも、どうなんだろうねと。聞くのはいいんですけど、行政として、このシンポジウムの位置づけというのはどういうふうに考えられているのかなというところを確認しないと、前にやったほうがいい、後のほうがいいということと関わってくるんで。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 まず、番町次世代シンポジウムというネーミングに関してですが、意味合いとしては、今後の番町について考えていくということで、次世代ということについては用いているところです。確かに、これまでなかなか直接ご意見を聞けなかった若い世代の方々のことを意識したということもございしますが、必ずしも年齢制限をしているというわけではないので、今後の番町を考えるという意味合いもあって、次世代という言葉を用いています。シンポジウムという表現に関しても、いろいろとほかの言葉がいいかどうかというところの検討はあったんですけども、皆さんにイメージしていただきやすい言葉の中で、今回については、このシンポジウムという言葉を使いました。

このシンポジウムが決定権を持つかと、意味合いとしてはどういうものになるかというご指摘に関してですけれども、今後与件整理を区が行い、日本テレビに対して、要求をしていくというステップが予定されている中で、その与件整理のための一つの判断材料とし

て、このシンポジウムを位置づけております。そのため、シンポジウムで上がった意見が、意見自体はそのまま全て日本テレビに伝えたいというふうに考えているんですけども、それ以外に、区としても、これまでの様々な意見と合わせて集約したものを、与件として整理したいと、その参考にしたいというのが区としての考えです。

○林委員長 ごめんなさい。議事整理。岩田委員と見解が違ってきます。

行政として、参画と協働のガイドラインの位置づけの部分でもいいですよ、公的見解の。どういう位置づけにされているのかというのを、きっちりとやり取りしてもらわないと、事前にシンポジウムを大量にやり続ける、都市計画審議会とは別にですよ。意見対立が出た場合、じゃあ、どちらを優先するんですかという話に最終的になりますよね。片方は嫌だ、片方は進めろとなったときに、位置づけが行政の中でどこのラインというか、シンポジウムがこの番町次世代シンポジウムですよというのをしっかりと打ち出していかないと、やり取りの中で、様々な広聴活動は行政としては当然やるでしょうと。事前も事後も日常もやっていくんでしょけど、そこを言わないと、早けりゃいいのかという形になってしまいますんで、どうなんだろう、庁内で共有されているんですかね、そういった位置づけというのを。なけりゃないで、しょうがないんでしょけど。

○加島まちづくり担当部長 位置づけというと、先ほど担当課長もご説明したように、本日は、すみません、都市計画審議会の附帯決議の案までちょっとここには用意しておりませんけれども、とにかく、全ての関係者が、この問題に関し、前向きに話し合える場づくりということで指示されております。そういった中で、都市計画審議会から出たものですから、都市計画審議会の先生方にご協力いただいて、この場というのが、このシンポジウムがそういう場という形で設定させていただいたといったようなところです。

その附帯決議の中に、地区計画の決定事項である高さや容積率は、それぞれの上限を定めたものであり、事業者が地区の要望を受け止めて、上限に対して、ゆとりを持った云々となっていますので、今回は、その地区の要望、これに関して、日本テレビの二番町の開発に関する要望等がその中で出てはいますけれども、そういった要望に関しては、先ほど担当課長が申し上げたとおり、日本テレビさんのほうにしっかり伝えていくと。そこからどういったような計画をされていくのかといったところが一つのポイントなのかなというふうに思っています。

一方で、今まで日本テレビの二番町の開発をきっかけとして、都市計画審議会の中では、対立の構図が生まれたといったようなところがあるので、今後、番町地区の日本テレビのところだけではなくて、街区だとか、そういった空間について、まちづくりに関して、いろいろとこのシンポジウムの中で意見を頂いたところがありますので、それは来年度以降しっかりと受け止めてやっていきたいなというふうに思っております。

今回、非常にこのシンポジウムで、私ももちろん聞かせていただきましたけれども、通常、区がまちづくりに関して、いろいろな説明会だとか、協議会でもいいと思うんですけど、何らかのものを区が資料として作る、二番町で言えば、例えば、日テレさんの計画だとかそういったものを説明して、何かご意見を頂くというような形を今まで取っていたところなんですけれども、今回のシンポジウムはそういうのが全くなく、自由に皆様のまちに対しての思いを発言してくださいと。それをまだまだこれから先だと思っておりますけれども、我々が受け止めて、まちづくりだとか、それを都市計画の中に落とし込めるかどうかとい

うこと、都市計画だけではなくて、例えば、道路の再編だとか、そういったものを今後やっていく、まさに、何というんでしょう、地域の発意、地域の意見を吸い上げてやっていくというような形が、今回、このシンポジウムの中で一つやり方として見させていただいたなというふうに思っています。

そういったやり方が、そのほかの地域で、例えば、集まっていたいて、まちのいいこと、悪いことみたいな話して、じゃあ、やっていきましょうといったときに、果たしてできるかどうかというところ、ほかの地域ですら、できるかどうかというのはあるとは思いますが、今回、番町地区に関しては、附帯決議について、これをきっかけとして、そういった、何でしょう、番町地区の全体のまちづくり、また、一方では、二番町の、日本テレビの二番町の計画に対する要望を踏まえ、どのような形で計画していくかといったところが少し進めることができるのではないかなというふうに考えております。

○林委員長 ごめんなさい。ちょっと議事整理のほう。私の表現方法がまずいか、今、意義については分かりました。委員の受け止め方は別ですけども。

私が確認したかったのは、行政内部で公聴会というのを法律に位置づけられているわけですね。公聴人を公募かけて、広報で、あらゆる利害関係者の、ほぼ住民ですけども、入れた中でセレクトして、公聴会を聞いた上で、施策展開をしていくと。参画と協働のガイドラインが幾つか、説明会だとかミーティングだとか公聴会だとかという分類をかけているわけですから、その中のどれにこのシンポジウムは当たる見解なんですかというのを確認したかったんですよ。そうしないと、先にやったほうがいい、後からやったほうがいいという意義の話じゃなくて、行政の体系として、どこの位置づけの広聴の活動だったのかというのを、精査されていないんだらされていないで結構ですし、されているんだら、お答えしていただければ、あんまりすれのない話になっていくのかなと。

○加島まちづくり担当部長 今回の委員長のご質問に関する、直接、参画と協働のガイドラインのこの部分だというようなところはちょっと明確には言えない部分があるかなと。それは、なぜかという、先ほど申し上げたとおり、大体、地域に出ていったときに、ご説明するとき、区の考え方なり、そういったものがあり、説明会なり、公聴会もそうですね、基本的な考え方をお示して、それに意見を聞くというような形なので、今回、そういったようなものではなくて、自由に番町地区のまちづくりについて、ご意見を伺いたいといったようなところになっていますので、そういった観点からすると、整理の中のものではないのかなというふうに思っております。

一方で、今、合意形成だとか、今日、説明があるかも——後であると思うんですけど、まちづくりプラットフォーム、そういった中の合意形成を進めていく上で、こういった手法というのはありなんではないかなというふうに思っていますので、そういった中で進めていく必要があるのかなというふうな認識でございます。

○林委員長 どっち。やりたい。どっち。いいですか。

○岩田委員 関連。

○林委員長 はい。春山副委員長。

○春山副委員長 私も番町の住人として、本当に対立構造のある中で、多くの方々からすごい過ごしにくいとか、何だろう、番町の森が使いにくいとか、いろんな意見があった中で、こういう形のシンポジウムをやるのは本当に大変だったと思うんですけども、結果

として、いい、皆さんがよかったということができたのは、とてもよかったと思います。

このまちづくりの住民の意見の取り方、岩田委員が全然住民意見が反映されてきていないというご指摘もありましたが、こういうふうに、住民同士の対立が続くの何とか改善していく、いかなくتهはいけないというところで、スマートシティ的なデジタルを使って、ダッシュボードを使って、皆さんの意見を反映させていくというような手法を取り組まれている自治体も増えてきているので、やっぱり今回どういう意見が出たのかということ、ポジティブな意見も含めて、皆さんにまた共有していくということもすごく大事だと思うので、そういう見える化というのは積極的に取り組まれていただき——今後、今後ですね、いただきたいなと思っていますが、その辺について、どうお考えでしょうか。

○加島まちづくり担当部長 来年度予算にも関わる部分もあるんですけども、そういった今の副委員長のご意見、まあ、今までもあったかなと思うので、そういったまちづくりに関する見える化、もっと分かりやすくという形は、来年度以降も検討していきたいなと、実施していきたいなというふうに考えております。（発言する者あり）

○林委員長 岩田委員、どうぞ。続きといて。

○岩田委員 名前を説明会にしようがシンポジウムにしようが、もうご議決賜りましたのを後でやっても、あんまり意味がないんじゃないかなというふうな気がするんですよ。だって、結局は、さっきも言った意見交換が新鮮なんていうような言葉が出るぐらい、今まで区が説明をちゃんとしてこなかった。だから、それが対立構図になっちゃったわけですよ。それを、皆様から出たご意見を日テレに全て要求していく。要求していったって、突っぱねられたら終わり、それこそ、まさに、ご議決賜りましたのでなんですよ、それが。だから、そういうのをやるんだったら、とっとと早くやればよかったものを、今頃になってやって、何か皆さんの意見をこんなに聞いています。で、シンポジウムなんて今までありませんでした。区はこんなにやっていますと。パフォーマンスにしかならない、既成事実ですよ、単なる、というふうに思っちゃうんですよ。だから、やるんだったら、タイミングをもっと早くやって、皆さんの意見が反映できるようなタイミングでやるべきというふうにさっきから言っているんですよ。今後も、この日テレのことだけではなく。結局、これだって、日テレには伝えます。でも、突っぱねられたら、終わりなわけじゃないですかということ言っているんです。まあ、でも、やらないよりはましですけども、でも、単なる既成事実にしていただきたくないということで、この質問に関しては、終わりです。

○林委員長 答えは要りますか。ちょっと整理したつもりだったんですけども、簡単に言うと、位置づけを答えられないのは残念なんですけれども、例えば、石川区長という人は、好き嫌いは別として、「ふらっと区長室」みたいな感じで、住民のところに出て行って、区長に直接対話で、どうぞ、何でも聞いてくださいと。木村区長も、区政懇談会でやっていたと。遠山区長もやっていたと。直接対話というのをかなり幅広くどなたでも来てくださいと、住民の方、やっていたから、意見が出たのかなと。そうすると、「ふらっと区長室」も参画と協働ラインに位置づけられていますけれども、区として、どういう位置づけでこれをやっていくのかなと。部長が、これ、全面的に聞くのかなと、課長なのかなと、あるいは、区長なのかなと、副区長なのかなというところを、しっかり確認で位置づけをしないと、岩田委員のようなご意見でぐるぐるというよりも、前がいいのか、後がいいのかといったら、どの時点がいいのかと、シンポジウムのという議論がしっかりと地に

足つかない形で、行政で。やらないよりやったほうがいいでしょう。ただ、聞いて、その結果どうだったのって、誰に対して言ったんだろうというのが、そのうち、住民の方も、区長に直接私は言ったんですよ。でも、駄目でしたじゃなくて、誰が聞いたか分からないけど、言ったんだけどねという形になってくると厳しいんで、行政上の位置づけというのをしっかりと再定義をかけたほうがいいのかなという気はいたしますし、前の企画課長が参画と協働のガイドラインってつくったときは、それを位置づけたのかなという気はするんですけども。

いいですかね、岩田委員。

○岩田委員 はい。

○林委員長 前がいい、後がいいというと、定義の位置づけがないんで、無理ですよ、それは、なかなか。

続いて、じゃあ、どうぞ、岩佐委員。

○岩佐委員 大変いい取組だったと思います。こういう機会が持ててよかったという感想が多く出るというところに、一つ、今回ご参加された人たちが日頃からあまりこういう機会がなかったと。まちそのもので、今、発言をする方が固定化していたり、あるいは、この番町のこの問題で言えば、反対しているご意見の方が、反対をご主張されている顔も見えてくるぐらい、人がちょっと固定化してきている雰囲気があったところ、そうじゃない、そこまで関わっていないけれども、皆さん意見をお持ちだよという形がうまく集まって、ご意見を言えるチャンス、これはすばらしいことだと思うんですけども。今後の、今回、どういう集め方をして、取舍選択をしたら、こういうメンバーになるのかちょっと分からないんですけども、そういった固定化されないメンバーを含めた意見聴取の仕方ということに関しては、特に、今までは、日テレに関してもやってこれなかったという部分があるので、もう少し、今回だけで終わらせるだけではなくて、やはり、もう少し何かそういう層へのアプローチということが必要なんではないかと思うんですけど、そこについてはどのように整理されているんでしょうか。

○榊原麴町地域まちづくり担当課長 はい。アンケートの回答の中でも、確かにメンバーを固定せずに、いろんな方のご意見を伺えるような形で開催してもいいんじゃないかといったような趣旨のご意見いただいているところもございました。具体的に、まだどういった形で、もしそういったご意見を取り入れるのであれば、メンバーを集めるかということについてのアイデアは決まってはいいないんですけども、例えば、今回も千代田区ポータルを使って周知をした結果、これまで関心を——関心がないというか、こういった問題についてご存じでなかった方が初めて来ましたと、こういった打合せに初めて参加させていただきましたというようなご意見もあったので、周知手段について、いろいろとこれまで届いていなかった層に届けられるようなことを考えていくというのも、一つ対策としてはあるのかなというふうに思います。

そのほかにもいろいろ考えられることはあるかと思しますので、固定化されない、いろいろな方々のご意見を聞けるというような考え方も、一つ、区としては考えてまいりたいと思います。

○岩田委員 関連。

○林委員長 関連。岩田委員。

○岩田委員 今回の岩佐委員のおっしゃるとおりだと思います。引き続き、こういうのはやっていただきたい。何と云って、今回、やりましたよ、やりましたよと言っても、30名弱の意見しか聞いていないわけですから。大半の意見は聞いていないということですから、そういうのも考えてやっていただきたい。これは、都計審とかともいろいろ相談したりとかしなきゃならないんでしょうけども、前向きに検討していただきたい。

以上で終わります。

○林委員長 はい。はやお委員。

○はやお委員 私は、何だかちょっとよく議論が見えないんですね。というのは何かというと、ここのところは、二番町計画の検討ステップという中から、この前向きに話し合える場の検討、設置するという中から出てきた話ですよね。まず、そこはそうなのかどうかを確認したいと思います。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 開催の経緯に関しては、ただいま委員おっしゃっていただいたとおりです。

○はやお委員 ということは、ここのところは、附帯決議があって、特別、個別案件というふうに私は認識していたんです。だから、本来であれば、やはり、その要件というものは、どちらが先かはあるんですけど、岩田委員の話だと思います。その取り方が、今までは協議会方式をやってきたり、やっていたものを、例えば、協働と参画という手法を使うのか、プラットフォームという使い方をやっていくのかという、ここのところについての整理はこれからだと思っているんですね。でも、みんなが開かれた形で話し合えますよねということは共通認識で、お疲れさまだったと思います。そのことについては、どういうふうに、今後、このことをやってみて、こういう集約の意見の聴取の仕方を、今後、プラットフォームなのか、協働と参画なのかということについて、使っていこうとか、いいことだなと思ったということがあるのか、ないのか、いや、これから整理なのかどうかを含めて、そこは、逆に言うと、お答えいただきたい。

○江原地域まちづくり課長 すみません。ちょっと今後のまちづくり全般に対する姿勢というところかなということで、私のほうから答弁させていただきますけども、参画と協働ガイドラインでいくと、いろいろ参画の手法がある中で、住民説明会とかが並んでいる中で、意見交換会、懇談会、この領域に入ってくるのかなと。はやお委員おっしゃるとおり、今回、やったきっかけとしては、確かに、そういったきっかけだったんですけども、やはり私も参加をして、ファシリテーターとか、そういった第三者にちゃんと仕切っていただいて、学経の意見も入れてというような、こういったやり方というところは、非常に、今後のまちづくりのそういった意見聴取の上で有効だなというところは、結果的には、次に生かすべき材料として、きちっと検証する必要があるかなと思っています。それを、先ほど委員長おっしゃるように、どの段階でどういう位置づけで入れていくのか。それは、ちょっと全庁的なところもあるかなと思いますんで、環まち部のみならず、ちょっとこういったやり方というのは庁内でちゃんと共有して、非常に効果が高いんだということを含めて、やり方として検討していきたいなというふうに思っております。

○はやお委員 そうだと思います。だから、ここのところについて、ちゃんと切り分けしていかないと、全体論の話と個別論の話というのが見えてこないだろうと思うんですね。じゃあ、こういうことでやってきました。ステップのときに何が書いてあるかということ、

前向きに話し合える場の検討、設置をして、その上のところに、与件整理と書いてあるわけですよ。じゃあ、与件整理って、何を与件整理しようとしているのか。その与件とは何かということなんです。ということは何かといたら、まず初めは、融和ということが一つの目的だったから、今回はそれなりに話し合いができただろう。だけど、この与件整理といったところに、いや、実は、環境のほうのデータを取っていかなくちゃいけないとかということにも役立てるように考えているのかどうか。やっぱり常にこのほうは論理性で、合理的にやっていく上で、自分たちが書いたこの資料を基に、こういうことですよと説明しないと、今、質問をお答えいたします、実は、このステップ論のここにこうなっていますという説明じゃないと、今の話を聞いていると、ばらんばらんなんですよ、話が。どこの話をしているのか、僕、分からなかったわけ。

だから、ここのステップ論からしたら、ここのところの目指すものが果たされているのかどうか、与件整理に向かって整理されているのかどうか、それをお答えいただきたい。  
○榊原翹町地域まちづくり担当課長 以前、二番町計画の検討ステップという資料を用いて、今後どういった形で進めていくかというご説明をさせていただいております。その中で、前向きに話し合える場の検討、設置の後には、ただいまご指摘いただいたとおり、与件整理というステップを予定しているところです。

今回のシンポジウムは、この前向きに話し合える場という形で位置づけをしているので、頂いたご意見、アイデア等を踏まえて、今後、区は与件整理をしてみたいですが、そこに向けての非常に重要なご意見は頂いたというふうに思っております。一方で、これまで都市計画手続等も通じて、今回のシンポジウムでは出ていないようなご意見、また、高さであったりとか環境影響といったようなことについても、これまで様々ご意見いただいておりますので、そういったことも、当然、区としては認識しておりますので、全て加味した上で、日本テレビに対して、今後の計画で、どういったことを念頭に検討してほしいかといったようなことをまとめるものが与件であるというふうに考えております。

○林委員長 ちょっと、差して申し訳ない。そうすると、やり取りの中で、もう1月12日のこのシンポジウムで、幅広に意見で、詳細はまだ上がってきていないんですけども、与件整理をする必要十分条件は整ったという受け止めを行政はされているのかどうかというのを確認していかないと……

○はやお委員 それはまだだと思うよ、今日は……

○林委員長 まだ、もう一回やるとなると、与件整理はまだですねという形になるんで……

○はやお委員 そう。そういうこと、そういうこと……

○林委員長 ここをきちっとやって、お答えできるんだったら。まあ、見ていないからね……

○はやお委員 そう……

○林委員長 これで十分だということも厳しいんでしょうけども、行政としてはいいのかなとか、不十分か十分か。

どうぞ、担当課長。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。今回の結果について、学識経験者の先生方とも共有をした上で、今後どういった形で与件整理をするかということについては、相談し

たいというふうに考えておりますが、それ以外にも、ステップの中で、環境影響調査といったようなことも挙げさせていただいておりますので、この辺りも加味して、次回以降、こういった形で進めるかということについては、改めてご報告したいというふうに考えています。

○林委員長 はやお委員。

○はやお委員 そうなんです。だから、そういうものが一つ一つちゃんと積み上げていっているというところが知りたいわけです。だから、そうなってくると、本当に私たちからすると、生の感じも聞きたいわけですよ。そうすると、例えば、ご意見いただきましたけれども、傍聴は駄目ですよとなったというのについては、どういう意見の下に、どういう判断をして、執行機関は傍聴を許さなかったのか、そのところは、やっぱり説明する必要があると思うんで、お答えいただきたい。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。冒頭の説明で少し触れさせていただきましたが、10月15日の当委員会の中で、もし委員が傍聴したいというお声があった場合に、皆さんの意向を確認した上で、異論がなければ、傍聴するという形がいいかなというようなご提案を頂いたと認識しております。それを踏まえて、今回、参加予定者が決まった段階で、皆さんの意向を確認した際に、恐れ入ります、理由までは確認していませんけれども、傍聴は希望していないという方はいらっしゃったので、今回、そういった方のご意見を尊重させていただいたというのが理由になります。

○はやお委員 そのところの、やっぱり民主主義ですから、いや、一応、そう決めましたよと。だけど、一番大切なのは理由なんです。異論が出たと、今お話ししましたけど、どういう異論が出たのかということなんです。いや、何となしにただ反対だといったら、これについては、やっぱり開かれたものになっていかない。それで、このところは、あくまでも、ただ意見を聞いているわけじゃないんですよ。今後のこの二番町の計画のステップ論の中での与件整理をしていく中でどうだということに興味を持っている方がいらっしゃるわけですから、漏れて。だから、その異論は、どういうことで異論があって判断をしたか。

僕はこの前のときも言いました、官製談合のときの再発防止のところ。やっぱり今までは、行政マンの人たちは、その理屈をきちっと確認していたんですよ。でも、今になったら、異論が良かったですから駄目ですよというんじゃあ、我々、ああ、そうですかというわけにいかないんだよ。だから、どういう理屈の下に駄目と言ったのかということが大切なんです。お答えいただきたい。

○榊原翹町地域まちづくり担当課長 はい。たしか10月15日の委員会のときでのやり取りかと思うんですが、ご参加いただいた方が気兼ねなくいろんなご意見を自由に発言できるような環境が必要だろうと、ご指摘を頂いておりました。そういったところを踏まえて、希望されなかった方がいたということを見ると、今回に関しては、その方のご意見を尊重させていただいたんですけども、やはり、当日の雰囲気を見ていて思ったのは、いろんな方に、どういう意見が出ていたかということについては、見ていただくことについてもやはり重要なかなというふうには思いました。

なので、今後の取組に当たっては、事前にお断りを入れさせていただくとか、一方で、安全に発言できる場も確保するというのももちろん重要なんですけども、考え方をどう

するかということについては、改めて検討したいというふうには考えております。

○林委員長 ちょっと大事なところで、私も、まとめのところで、反対する人がおられたらなかなか厳しいのかもしれないんですけどと言ったんですが、よもやお断りされると思っていなかったんですよ、前向きにというんで。正直言って、びっくりしました。皆さんのところも、メール配信で出しますよという依命通達に書かれる連絡がありましたけれども、そのときも衝撃を受けました。

問題なのは、このシンポジウムに参加されている方は、区が与件整理をするシンポジウムだという認識の下に傍聴をお断りしたのかということなんですよ。ただ意見を聞く場だったら、そうなんだろうなと思うけど、与件整理をするって、極めて重大なシンポジウムだと認識された上で、区民のですよ、ほかの人たちの傍聴は、いや、遠慮してもらいたいと言ったのか。あるいは、自分の気持ちだけを述べるのは、いや、知っている議員さんに見られたら嫌だなとかというレベルなのか。このレベル感というのは極めて大事だと思うんですよ。なぜならば、与件整理だから。どうだったんですかね、現状認識のところは。

○榎原麴町地域まちづくり担当課長 はい。具体的に、その方がどこまでこういった議会でのやり取りをご理解されているかということ、分からない部分があるんですけども、個別にこちらから具体的なご説明はしていないので、そういった意味では、もしかするとご存じでなかったという部分はあり得るかなというふうに思います。

○林委員長 そうすると、まあ、正直言って、都市計画審議会の加藤先生と村山先生が出るというのも、本日、初めて委員会報告なわけですよ。

○はやお委員 あ、そうだよ。

○林委員長 うん。だって、調整中ですよ、調整中ですよとなったんで。事後的に出てきて、これで与件整理に入るというのは、執行機関が責任を、全責任を持って、地域融和のために行くという覚悟を持ってやられているんでしょうけども、ちょっと与件整理まで入っていくという順を追っていくと、違和感はないではないというのを考えるのは普通だと思うんですよ。だって、執行機関だけのクローズの意見聴取の場ですから。メンバー選定したのも、もう判断基準も分からないわけですから、住民も。どうなんだろうなというのが、与件整理に当たっていくところで。

○加島まちづくり担当部長 はい。我々としては、前向きな場をつくりながら、番町地区並びに二番町の日本テレビに関する意見に関してあれば、そこは意見として受け止めさせていただくといったようなところを考えていたというようなところです。

資料の与件整理といったものに関しても、やはり、そういった意見が出た場合には、そういったものを踏まえるべきだろうというふうに思っております。一方で、このシンポジウムにももちろん参加されていない方々という方もいらっしゃいますので、そういったところというのは、何かやはり意見が出てくるというふうには思っております。ただ、それを、じゃあ、どういう場で、どういう形でやるかといったようなところというのは、今決めていないところはありますので、基本的には、このシンポジウムで出てきた意見に対しては、また教授、都市計画審議会の委員の先生ですね、その方々に、これは二番町の日本テレビに係る意見だねということで整理をしていただいて、一つ、与件整理の一つの中にしたいなというふうに考えております。

○林委員長 整理の仕方が悪いのか。だから、最初に参画と協働ラインの位置づけという

のを確認して、その後で、与件整理の集約ですよね。要は、与件整理の集約をかけていく場というのは、当然、行政として、公聴の場というのが位置づけがかなり価値基準が高いはずなんですよねってやっていくんだけど、いい意見が出たのはいいですよ。前向きな意見はいいですよ。これとイコール与件整理というのが、参加者を含めて、どこまで認識されていたのかというのを確認しないと、終わったって、もう一回やったほうがいいんじゃないかとか、まだまだといったら、エンドレスの世界に行くのと、ほかの意見ベースが上がったら、またそれは考えますという、価値基準が分からなくなってきてしまいましたかねという懸念ですよね、多分。

はやお委員。

○はやお委員 だから、やりながら、与件整理を集約していくというのもあるでしょう。だから、動きながら。だから、その辺をどういうふうにして、まとめていくのかということ、やっぱり整理する必要があると思う。で、何を心配するかといったら、結局は、この基本計画をつくるのに6か月以上と書いてあったタイムスケジュールがあるわけですよ。それからすると、もう6か月以上となると、あと何か月あるんですかという話で、そんなに悠長な形で与件整理できるのかという話なんです。いやいや、もう、建築資材も上がって、ある人によっては、2.6倍、2.7倍と言っているから、ゆっくりやってくださいよ、ガス抜きやってくださいよということはないだろうとは思いますが、そういうような感覚で、ただ、やっていけば、例えば、岩田さんのように、こんなことはもっと前でやることだったんじゃないんですか。でも、やっぱり与件整理として、どういうことが与件整理していくのか。一番大切なのは、私は、環境のほうの調査等々に関わるリレーションが出てくるだろうから、それと、あと、私は、はっきり言うべきだと思うんです。2,500平米の街区公園の話はもう決定だと。だから、その中で、どういうふうに使われたいんだとか、その、今の、どこが余裕率があって、何を検討するのかとやらなかったら、ただ、みんな言いつ放して、よかったね。で、それは、番町のほかの地域はあるかもしれないけど、スタートは二番町の計画の検討ステップの中に出てきた、この前向きな話合いですから。だから、そこをどうやるのか、もう少し明らかなものを出していただきたい。

スケジュールも、もう少し、6か月以上と言っていたものがどういう状態になっているのか、知りたいですよ。何かといったらば、このD地区に関して、たった日テレだけのためだけに、ここを地区計画を変えているんですから。その責任は重たいんですよ、我々からすれば。議決もしているんですから。だから、そのところについては、進捗報告していただきたいと思ったり、この与件整理の在り方をやっぱり整理していただくし、そして、またこの進め方については透明化してやっていただきたいと思ったり、いかがでしょうか。

○加島まちづくり担当部長 はい。今回のこのシンポジウムに関して、今、はやお委員言われたような広場の使い勝手、特にイベントだとか、こういうものもいいよね、逆に、こういうものはしてほしくないよねだとか、そういったようなご意見も出たと。また、一方では、建物の中の施設の内容、ここではちょっとあんまり言いませんけど、こういったものを入れてもらえないかといったような話もあったと。そういったものを、やはり日テレさんのほうにはちゃんと伝えて、その中で、どういった計画になっていく、その建物の計

画があらあら、決定とかじゃなくて、あらあら基本計画ぐらいの中で、どのぐらいの規模だとか、要するに、建物全体の規模というよりも、その用途に対する規模だとか、そういったものをちゃんとある程度図っていかないと、周辺に対する影響というのがちょっと変わってきちゃうというところになりますので、日テレさんにそういったことを伝えて、日テレさんがどういうふうに計画を立てて、それに対して影響がどうなのかということを検証していただく必要があると思います。そのときには、やはり広場の大きさ、配置だとか、建物の容積だとか、高さというものをある程度出さないと、それはできてこないと思うんですよ。だから、それをいつ出していくのか。それは、与件整理を向こうに伝えてから受け止めていただいて、向こうが考えて出していくかといけないので、ただ出してきたら、じゃあ、それでオーケーかということもあると思います。また、いろんな意見も出てくるのかなと思いますので、そこをどういうふうにやっていくかということが大事なのかなと思っています。今、とにかく日テレさんにこういったような意見がありましたよ、広場の使い勝手、建物の用途だとかということはこういうような意見もあったということや、それをちゃんと伝えて、それをどう受け止めていただくかといったところの段階かなというふうに思っております。

○はやお委員 まあ、そういうことだと思う。で、私はもう、ここに議決しちゃっている中で、もう現実路線だと思っているんです、決まっていることについて。そこで、お互いに、日テレも、あと、やっぱり地元もぎりぎりのことをやりながら、苦しみながら、いい意味での苦しみながら、本当にいいものを、納得したものを造っていくというためには、そんな楽な世界じゃなくて、厳しいものだと思っています。でも、けんかしようということじゃないんですよ。もうここまで来て、決まっていることはちゃんと前提条件を話して、そうじゃないと、いや、ここ、もっとできると思ったというふうに思わせちゃ駄目だから、そこはまた不信感になるから、このところは、もうリアリティーを持って、このところまでが前提条件ですよ。でも、その中で、皆さんの地域に少しでも寄り添っていきたいというような流れをつくっていかなかったら、やっぱり、後で出戻りが出てきて、苦しいかもしれないけど、ここは、逆に、岐路のところだから、最後の。少しでも、やっぱり地域事情を踏まえてあげて、これで、日テレさんが、今、いろいろな、オールドメディアとかって、いろいろ騒がれているから、このところは踏ん張っていただいて、地域のためにやっていただくということが非常に大切なことだと思うので、そこの中に入るのは、やっぱり区、行政のことだと思うんで、もう命がけでやっていただければと思います。その覚悟を聞きたいと思います。

○加島まちづくり担当部長 今、はやお委員言われるように、日テレさんも、思いは、そういったよいまちにしていききたいといった思いはあるというのは事実です。で、どう受け止めていただくかといった形です。しっかり、私たちも、そこら辺は捉えさせていただいて、今後の展開、しっかり責任を持ってやっていきたいなというふうに思っております。

○林委員長 はい。よろしいですか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 まあ、取扱い。で、議事録、文字起こし等々が次回までに提出していただけるということですので、今、整理中ということですので、継続の取扱いで、26件の陳情についてはさせていただきます。